

はびきの Medical Net



FUTURE 「アトピー性皮膚炎最新治療」 副院長 片岡 葉子

新病院ニュース

地域になくてはならない医療機関を目指して

セミナーのご報告

論文紹介さーと

感染症内科 呼吸器外科 小児科

はびきのパーソン

PICK UP

NST（栄養サポートチーム）の活動

地域医療連携ニュース①

「医学の発展を牽引する関節リウマチ治療の進歩」 副院長 緒方 篤

連携医療機関のご紹介

なんぼう腎・泌尿器科クリニック さま ふるやまクリニック さま

NEW TOPICS①

オンライン予約システム「C@RNA Connect」をご活用ください！

地域医療連携ニュース②

「いつまでも動ける体を維持するために」 整形外科主任部長 塚本 泰徳

NEW TOPICS②

MEDICAL GATEのご案内

お知らせ

診療科より

新時代を迎えたアトピー性皮膚炎の治療



片岡 葉子(かたおかようこ)

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター副院長
皮膚科主任部長
アトピー・アレルギーセンター長

【略歴】

1983 広島大学医学部卒業
1983 広島大学医学部付属病院皮膚科研修医
1985 大阪船員保険病院皮膚科医員
1996 大阪府立羽曳野病院皮膚科医長
1999 同 皮膚科部長
2006 同 皮膚科主任部長
2011 同 アトピー・アレルギーセンター長(兼任)
2017.4 同病院改称, 大阪はびきの医療センター
2019.4 同 診療局長(兼任)
2021.4 同 副院長(兼任)

【主な所属学会】

日本皮膚科学会(専門医・指導医)(代議員)
日本アレルギー学会(専門医・指導医)(代議員)
日本心身医学会(専門医)
日本うつ病学会
日本皮膚免疫アレルギー学会(理事)
日本皮膚科心身医学会(理事)
アトピー性皮膚炎治療研究会(事務局長)
European Society for Dermatology and Psychiatry
European Academy of Allergy and Clinical Immunology
専門は、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、皮膚アレルギー、膠原病、皮膚心身医学等。

アトピー性皮膚炎は乳児から成人まで有病率10%前後のありふれた疾患ですが、重症化するとQOLや社会生活に大きな影響をあたえます。

また、乳幼児期のアトピー性皮膚炎コントロールは食物アレルギーを予防するためにも重要です。本症の病態解明にともない、2018年承認の抗体製剤デュピルマブを皮切りに複数の新規治療薬が開発、保険適用となり、重症難治性アトピー性皮膚炎の症状が大きく改善できる時代になってきました。

デュピルマブはインターロイキン(IL)4とIL-13の共通の受容体であるIL-4受容体αに対するモノクローナル抗体で、アトピー性皮膚炎の病態の中心にあるIL-4、IL-13双方の作用をブロックすることにより、既存治療に抵抗性であった数多くの重症患者の掻痒、皮膚症状、高IgE血症とともに顕著に改善させることができるようになりました。さらにバリシチニブ、ウパダシチニブ、アブロシチニブの3種類のヤヌスキナーゼ(JAK)阻害薬の内服薬も保険適用となっています。JAKはインターロイキンの細胞内へのシグナル伝達を仲介する酵素でIL-4、IL-13以外のインターロイキンの作用にも関与し、IL-22、IL-17などアトピー性皮膚炎で関与している他のサイトカインの作用も同時に抑制することから、デュピルマブ抵抗性の重症アトピー性皮膚炎への効果も期待されます。

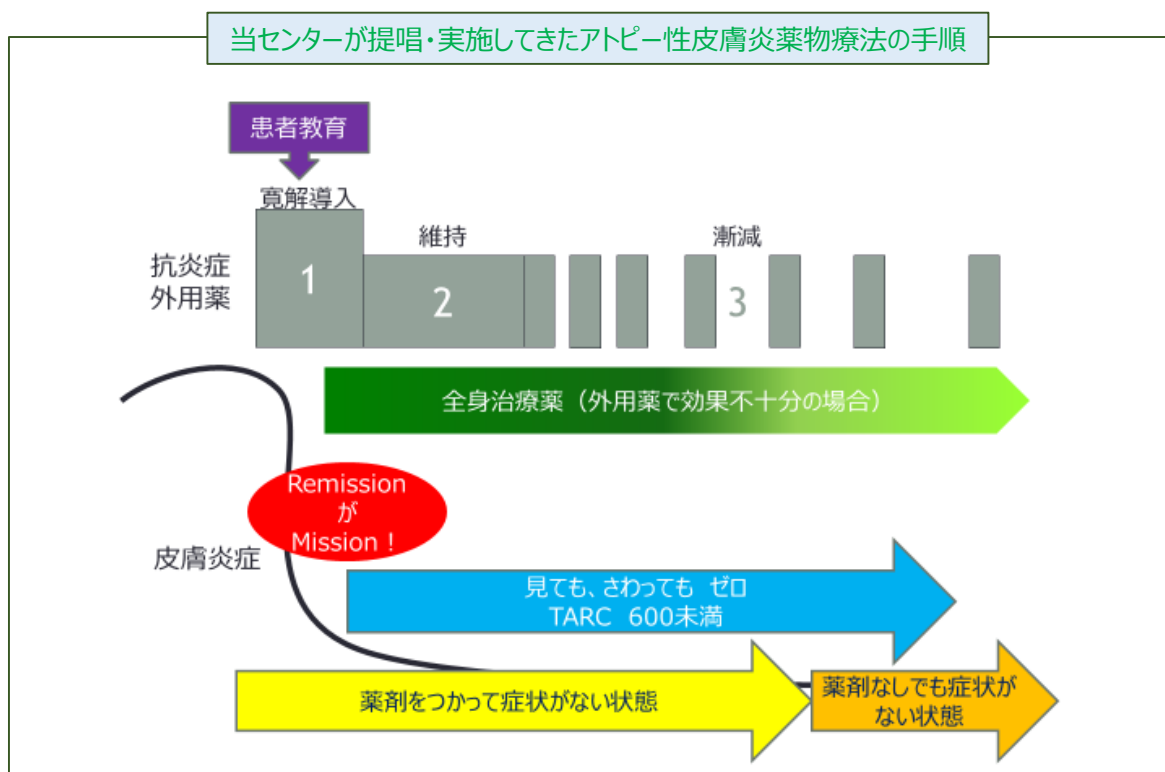
しかし、これらの新規治療薬はいずれも高額で、患者人口が多い疾患だけに適応患者を適切に選択し、その治療効果を最大化することは医療経済全体からみても大きな課題です。

～新規治療薬の登場と既存治療薬の最大活用～

当院では2008年から多職種による患者教育入院システム“アトピーカレッジ”を確立し、現在まで2,000名弱の重症患者の長期予後の改善をめざした治療に取り組んできました。その鍵となるのは、寛解導入、寛解維持を意識した戦略的な薬物療法と、患者教育です。その結果、重症例であっても6割程度は既存治療で長期コントロールが可能であることを確認しています。

また、乳児期早期からの戦略的な外用療法は、成人期の重症化を防ぐためにも重要です。

長年当科が発信してきたアトピー性皮膚炎治療における寛解導入・寛解維持の概念は2021年ガイドラインに明記されるようになりました。アトピー性皮膚炎は軽症から重症まで幅広い疾患です。当科の専門性を発揮し、新規治療薬の適正使用についても情報発信する責務を果たすには地域の先生方との有機的な連携が欠かせません。今後ともよろしくお願いいたします。



新病院 ニュース

地域になくはない医療機関をめざして

令和 5 年 5 月 新病院 開院予定
新病院の整備内容をご紹介します！



左：北側からの外観イメージ

右上：南側からの外観イメージ

右下：実際の現場状況（7月末現在）

＜みなさまへ＞

令和 5 年 5 月の開院に向け、現在、整備工事を進めています。（令和 4 年12月竣工予定）

新病院においては医療用ロボット手術機器ダ・ヴィンチを始めとして最新の医療機器を揃える予定です。さらに患者さんが安全・安心して受診いただけるように、車両動線の分離や独立した救急動線など、敷地の高低差を活かしたアプローチを設けるとともに、外来診療エリアを横の移動のみで完結できるように、受付から診察、臨床検査、レントゲン検査、会計に到るまでワンフロアにまとめました。また、入院患者さんの快適な療養空間として、隣接する石曳池を活かしたガーデンを整備して、入院生活に憩いや潤いを提供する予定です。

開院から70年、新しく生まれ変わる、大阪はびきの医療センターにご期待ください!!!

整備概要

＜建物概要＞

延床面積 約 34,199 m²
鉄骨造・6 階建（免震構造）

＜診療機能＞

病床数 405 床
（一般病床 354 床、第2種感染症病床 6 床、
結核病床 45床）



＜内装イメージ＞

- ✓ 外来 ⇒ アースカラーを基調とすることで窓から見える風景と調和し、自然の中にいるような心のどかに過ごせる空間となるようデザインしています。
- ✓ 病棟 ⇒ 壁を病棟ごとのイメージカラーで色分けし、落ち着きがあり明るい空間となるようデザインしています。



■ 2階：エントランスロビー・外来



■ 2階：エントランスロビー・総合案内



■ 2階：外来・ホスピタルストリート



■ 病室



■ HCU



■ スタッフステーション

＜主な諸室＞

手術室（ハイブリッド手術室含む）、ICU、HCU、NICU、外来化学療法室

陰圧対応室：手術室、結核・感染症病床、エコー検査室、内視鏡検査室、X-TV 室、透析室など

＜主な医療機器（予定）＞

内視鏡手術支援ロボット、手術ナビゲーションシステム、ロボットアーム手術支援システム、アンギオ、リニアック、ガンマカメラ、結石破碎装置、3T MRI、CT、一般撮影装置、X線TV装置、乳房撮影装置、骨密度測定装置 など





セミナーのご報告

第8回 はびきのアカデミーを開催しました

◆7月23日（土）15:00～16:00（WEB開催）

- ・Session1 「骨粗鬆症治療薬の使い方 UPDATE」
整形外科主任部長 塚本 泰徳
- ・Session2 「ステロイド薬の一般的な使い方 UPDATE」
副院長 アレルギー・リウマチ内科 緒方 篤

COVID-19の急拡大の中でしたが、当日は36名の方にご参加いただきました。
ご多忙のところご参加いただきありがとうございました。
次回は10月ごろを予定しております。プログラムは決定次第お知らせいたします。

第29回 医療でつなぐ地域連携ネットワーク（SOCC）を開催しました

◆8月20日（土）16:00～18:20

- ・場 所：スイスホテル南海大阪 7F 芙蓉の間
現地ならびにWEBによるハイブリッド方式で行いました
- ・共 催：医療でつなぐ地域連携ネットワーク South Osaka Cure & Care
柏原市医師会 羽曳野市医師会 藤井寺市医師会 松原市医師会
大阪狭山市医師会 富田林医師会 河内長野市医師会
大阪はびきの医療センター 帝人ヘルスケア株式会社

【教育講演】 座長 富田林医師会 会長 藤岡 洋 先生
『2022年現在の抗酸菌感染症について』
大阪はびきの医療センター 感染症内科主任部長 永井 崇之

【特別講演】 座長 大阪はびきの医療センター肺腫瘍内科 主任部長 鈴木 秀和
『慢性呼吸不全診療の新展開～在宅ハイフローセラピーのエビデンスと実際～』
高槻赤十字病院 呼吸器科部長 北 英夫 先生

当日は現地及びWEBによる多くのみなさまにご参加いただきました。
ご多忙のところご参加いただきありがとうございました。

論文紹介 さーと



当センターにおいて発表した論文をピックアップしてご紹介いたします。

感染症内科

Scoring system for identifying Japanese patients with COVID-19 at risk of requiring oxygen supply: A retrospective single-center study

新型コロナウイルス感染症と診断された患者206例を対象に、酸素吸入を要する患者を識別するスコアリングシステムについての検討

Kitajima H, Hirashima T, Suzuki H, Arai T, Tamura Y, Hashimoto S, Morishita H, Matsuoka H, Kashiwa Y, Han Y, Minamoto S, Tanaka T, Nagai T.

Infect Chemother 2021 ;27(8):1217-1222.

呼吸器外科

気胸術後のアスペルギルス膿胸に対し、肋骨切除を行わない開窓術に局所陰圧閉鎖療法を併用した1例。

肋骨切除を行わず、小開窓に局所陰圧閉鎖療法を併用することで治療し得たアスペルギルス膿胸の1例を報告

福山 馨, 北原 直人, 小菅 淳, 杉浦 裕典, 安藤 紘史郎, 門田 嘉久

日本呼吸器外科学会雑誌 (0919-0945)36巻2号 Page210-214.

小児科

気管支喘息児の学童初期の肺機能は思春期年齢の治療レベルを予測する因子の一つとなる

学童初期の肺機能は思春期年齢での喘息治療レベルの予測因子になる可能性がある

吉田 之範, 深澤 陽平, 九門 順子, 山口 智裕, 上野 瑠美, 釣永 雄希, 中野 珠菜, 重川 周, 高岡 有理, 亀田 誠.

アレルギー 71巻3号 Page221-230

耳鼻咽喉・頭頸部外科

河辺 隆誠

KAWABE TAKANARI

子面楚歌!?

耳鼻咽喉・頭頸部外科医員の河辺と申します。
2020年10月より当院に赴任しております
当初は小児の経験が乏しく、診察を嫌がる子供に
どのように対応したらよいかわからず不安もありました。
いつの間にか外来は子供で賑やかになりました。
家では現在2歳と0歳の2人の父として育児に
奮闘しております。
子供たちにもらったエネルギーを子供たちに注ぐ、
循環型の生活を送っています。



学会発表の様子



家では沐浴係です♪



集団教室の様子
私はここにいます

リハビリテーション科

大黒 大輔

OGURO DAISUKE



自然農で栽培したナス

「自然農」すごいんです！

皆様は自然農という言葉聞いたことがありますか？農業というと土を耕し、草を刈り、肥料を与えて、殺虫をしながら育てることが一般的な方法ですが、自然農は全く正反対の育て方をします。「耕さず、虫や草を敵とせず、農薬、肥料を用いない」栽培方法で奈良県の川口由一さんが提唱されました。草を刈らないので地面は乾燥せず水やりの必要がありません。また、虫が作物の代わりに草を食べるので農薬を使用しなくても被害は少ないです。枯れた草の根が朽ち消えることで空間ができ耕さなくても土はフカフカになります。枯れた草や昆虫や動物の死骸が栄養となり肥料も必要ありません。人は必要最低限の手を貸すことで作物が育ちます。自然農の田畑では色々な種類の草や昆虫、蛙や蛇や蟹など様々な動物がおりとても賑やかです。動植物が混然一体となり命の舞台を形成し次の命を育てる、そんな世界につながりに毎週田畑に通っております。

当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るくがんばっています。今後、この「はびきのパーソン」コーナーで紹介していきますので、少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです。



NST（栄養サポートチーム）の活動について

NST（Nutrition Support Team）は、医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師の多職種からなるチームとして2006年に発足しました。

現在では、言語聴覚士、歯科医師、歯科衛生士、事務も加わっています。患者に栄養は切り離せない治療の一つです。NSTの役割は、栄養スクリーニングと栄養アセスメント、適切な栄養管理について指導、提言、嚥下スクリーニングで抽出された患者の評価、内視鏡検査や嚥下訓練指示、NST活動の周知、新しい知識、技術の紹介、啓発です。「患者の声に耳を傾ける」「食事を楽しんでほしい」を基本方針としているNST活動についてご紹介します。

■NST委員会【1回/月開催】

NST回診や嚥下回診の報告、難治症例の検討、新しい情報の共有や院内全体の知識向上のため勉強会の企画などを検討しています。



■NST回診【3回/週】

多職種でカンファレンスを行い、対象患者に最適な栄養療法を検討します。ベッドサイドにも訪問し患者の意見も取り入れます。

当センターでは、肺結核、COPD、肺がんなど、肺疾患で低栄養の患者が多いです。



■食事の工夫

NSTでは栄養管理室と協力して食事の開発もおこなっています。

COPD患者には少量で栄養価の高い「COPD食」、誤嚥しやすい患者には状態に合わせて「5段階の嚥下食」をご用意しています。ほかにも様々な工夫をしています。



・鮭をムニエルにしてマリネ
・小松菜としめじの和え物

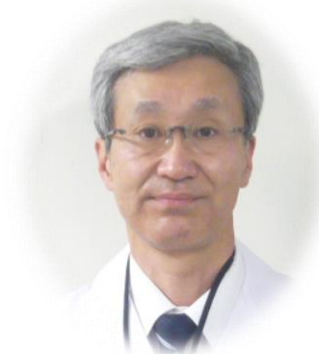
■嚥下回診【木曜/毎週】

嚥下内視鏡検査（場合によっては嚥下造影）を行い患者の嚥下状態を評価し、嚥下訓練や患者にあった嚥下食を選定します。

地域からの嚥下障害精査も受けています。飲み込みが気になる、体重が減ってきた場合は嚥下機能に問題があることがあります。耳鼻咽喉・頭頸部外科を受診の上、必要な場合は入院して検査を行います。ご希望時は地域医療連携室までご連絡ください。



・ごはん 200g→100g
・鮭を揚げてマリネ
・常食の和え物に
ピーナッツバター 4g
MCTパウダー 2g



～医学の発展を牽引する関節リウマチ治療の進歩～

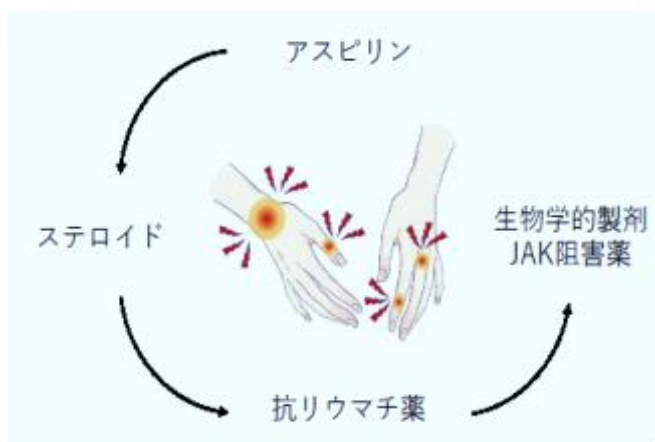
大阪はびきの医療センター副院長 緒方 篤

日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医・指導医、
日本リウマチ財団登録医、難病指定医、日本臨床免疫学会免疫療法認定医、
日本医師会認定産業医

関節リウマチは関節痛が持続し関節が壊れて変形していく病気で、うまくコントロールできないと日常生活に大きな支障をきたします。

そのためにリウマチに対する薬剤開発は常に時代の先端を走っていました。

1899年に発売された世界初の化学合成薬であるアスピリンは、フェリックス・ホフマン博士が関節痛で苦しむリウマチの父親のために、それまでの鎮痛薬であるアセチルサリチル酸の不快な副作用を軽減する目的で開発されたと言われています。また、1950年のノーベル医学生理学賞を受賞したステロイド薬はフィリップ・ヘンチ博士がリウマチ治療薬として開発しています。



この時、ステロイド薬の効果は痛くて寝たきりだったリウマチ患者が翌日にはダンスできるくらい画期的であったと言われています。しかしステロイドの過剰な使用は様々な副作用を生むことがわかり、リウマチ治療の主役から姿を消します。その後さまざまな抗リウマチ薬が開発されましたが、どれもステロイドを超えることはできませんでした。

しかし21世紀になり、ついに生物学的製剤、いわゆるバイオ医薬品が登場します。その画期的な効果はパラダイムシフトが起きたと言われるほどの衝撃でした。さらにJAK阻害薬という内服薬で生物学的製剤と同等以上の効果が期待できる薬剤も登場しリウマチ診療は新たな時代に入りました。

当センターでは最新リウマチ診療にも対応しています。よろしくお願いいたします。

連携医療機関のご紹介

なんぼう腎・泌尿器科クリニック

〒583-0012 藤井寺市道明寺2丁目5-25

電話 072-936-3311

URL <http://nanpo-uro.com>



泌尿器科専門医として小児の泌尿器疾患（夜尿症など）から癌を患われている患者さんのサポートまで専門性を活かし幅広く対応いたします。また通院困難な方に対しては往診・訪問診療も行っております。泌尿器疾患はもちろんそれ以外の疾患でお困りの方もお気軽に御相談下さい。これからも地域の皆様に寄り添える医療を心がけて参ります。どうぞ宜しくお願いします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:45-12:00	○	○	○	○	○	○	/	/
16:30-19:00	○	予約 検査 のみ	○	/	○	/	/	/

ふるやまクリニック

（内科・整形外科・リハビリテーション科）

〒583-0882 大阪府羽曳野市高鷲9-1-1

電話 072-955-0188

URL <https://furyama-clinic.com>



『いつまでもじぶんのあしで歩くために』をモットーに患者様の健康サポートを内面（内蔵機能）外面（運動機能）の両面から行います。

- 【運動機能部門】①骨粗鬆症の診断（DEXA）と治療
②エコーによる診断と治療（ハイドロリリース）
③運動器リハビリテーション 施設基準2

- 【内 科 部 門】①内分泌・代謝系の診断と治療
②メタボリック症候群への診断と治療
③エコー3台を駆使した、迅速簡便な検査体制
④スパイロ・脈波・血算、HbA1cの院内検査可能

患者様の良き人生に貢献できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/	/
15:00-19:00	○	○	/	○	○	/	/	/

地域医療支援病院である当センターでは、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、診療情報の交換などによって医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的として登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。ご質問や登録ご希望の先生方はお手数ですが地域医療連携室までご連絡をお願いします。

オンライン予約システム「C@RNA Connect」をご活用ください！

インターネットによる診療・検査の予約ができます！



① “インターネット”で診察予約を取得できます。

② 24時間365日いつでも簡単に予約ができます

③ 診療所様は“無料”でご利用頂けます

④ 案内状や情報提供書を診察室でプリントアウトして、
その場で患者さんにお渡しすることができます。

- ・2022年2月14日より、外来診療については全診療科で、検査についてはCT単純撮影のみ予約対応しております。
- ・暗号化されたVPN認証でセキュリティ対策しています。

トップ 患者情報 受信一覧 送信一覧 取消一覧 診療・検査予約 紹介状作成

地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター

依頼先施設選択: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪はびき | 検索

予約カレンダー NEW 検索

予約キャンセルや日時変更の場合は地域医療連携室までご連絡ください。 緊急受診が必要な場合や、どの科を予約したいか 病院からお知らせ

川島 佳代子 (希望: 2022/03/02A) 花田 有紀子 (希望: 2022/03/04A) 奥野 未佳 (希望: 2022/03/08A) 河辺 隆誠 (希望: 2022/03/08A) 中谷 彰香 (希望: 2022/03/01A)

小幡 翔 (希望: 2022/03/11A)

川島 佳代子の予約カレンダー

2022/03/15 - 2022/03/21

患者名 非表示 ごみ箱 緑の色の説明

	03/15(火)	03/16(水)	03/17(木)	03/18(金)	03/19(土)	03/20(日)	03/21(月)
09:00		予約済					
09:30							
10:00		予約済					
10:30		予約済					

予約カレンダーで『空き状況』がひと目でわかります。
必要事項を入力していただければ、予約完了！
患者さんをお待たせすることなく予約票のお渡しまでができます。

本システムのご利用にあたっては、富士フィルムメディカル株式会社への利用登録が必要です。
利用規約をご確認のうえ、新規申込書に必要事項を記載いただき、当センター地域医療連携室へ
ご郵送ください。ご登録完了後、富士フィルムメディカル株式会社よりログインID・パスワードをお送
りいたします。

皆さまからのお申込みお待ちしております。

詳しくは、当センターホームページ
をご参照ください





いつまでも動ける体を維持するために ～骨粗鬆症の検査をお受けください～

大阪はびきの医療センター

整形外科 主任部長 塚本 泰徳

日本整形外科学会専門医

日本リウマチ学会認定医

日本整形外科学会（リウマチ認定医・スポーツ認定医・リハビリ認定医）

①変形性関節症・骨粗鬆症を中心とした高齢者の治療

②骨折をはじめとする、骨関節の外傷治療



を中心とした整形外科診療を行っています

閉経後の女性に最も多い症状の一つとして、腰痛や関節痛があります。その主な原因は骨や関節の変形や老化による変性ですが、閉経後の女性では更に急速な骨吸収・骨破壊により、症状は一段と強くなります。

昔は骨関節の変形や変性は元には戻らず、あきらめていましたが、最近の治療は進化し、適切な診断・治療を行えば腰痛などの改善が期待できるようになりました。

しかし、高血圧や高脂血症に次いで多い疾患であるにもかかわらず、治療を受けておられるのは、約20%程度とされています。現に私たちの外来においても、骨粗鬆症が心配で来院される方はほとんどおられません。

骨粗鬆症治療で最も大切なことは、閉経後早期より治療介入することです。それにより骨密度が維持され、年齢が上がっても骨年齢を若く保つことができます。そして、脊椎の圧迫骨折や大腿骨骨折などの骨折リスクも減り、腰痛や関節痛で悩まされることも少なくなります。

一日でも長く、自分の足で歩き、日常生活動作において自立した、充実した生活をおくるためにも、閉経後の女性の方はぜひ一度、検査をご検討ください。



新病院で導入予定の骨密度測定装置

後払いクレジット決済&薬局連携サービスシステム



大阪府立病院機構では、病院での3大待ち時間（診察待ち、会計待ち、お薬待ち）の解消に向け、患者サービス「Medical Gate」の取組みを進めています。

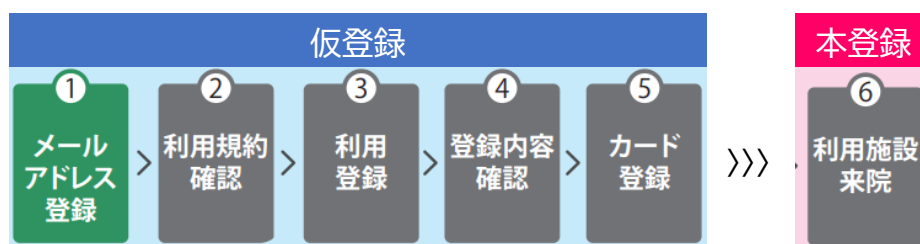
これまでクレジットカードをご登録いただくことで、**病院での会計待ちを解消する「あと払いサービス」**を提供していましたが、このたび**院外処方せんを事前に保険薬局へ送る**ことで、お薬待ちや会計待ちのストレスを感じることなくお薬を受け取れる、**「薬局連携サービス」**を開始することとなりました。

「Medical Gate」サービスをご利用いただくことで、病院での会計を待つことなく帰宅でき、また院外処方せんを保険薬局へ送ることにより、通知を受けてから、お薬を受取りに行くこととなり、待ち時間をお好きな場所でお過ごしいただくことができます。

このサービスは無償で提供しておりますので、ぜひご利用ください。

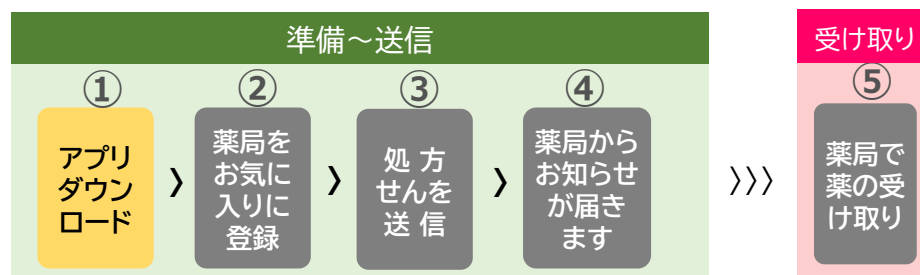
◆初回登録方法

Medical Gate サービスを利用するためには、事前の利用登録が必要になります。次の6つのステップで利用登録を行います。



- ※⑥の本登録では、
- ・診察券を持参のうえ、ご利用施設のMedicalGate受付窓口へお越しください。
 - ・職員が診察券番号(患者ID)を登録すれば本登録完了です。

◆薬局連携サービス利用方法



【メディカルゲート利用登録場所】
1階 再来機受付機横
受付時間:月曜～金曜
9:00～16:30



◆ 消化器外科よりご案内 ◆

➤ 腹部の救急患者の受け入れをいたします

腹部救急疾患一般
(診断未確定の急性腹症も受け入れます)
消化器内科・泌尿器科・婦人科などのバックアップも整っています！！
概ね19時頃まで受け入れが可能です。

➤ 当日午後からの急な診察も受け入れいたします

“救急ではないけど、明日まで待つのはちょっと心配”
という患者の受入れも16時まで行っています。
地域医療連携室まで電話でお問い合わせください
対象疾患：上・下部消化管、胆のう

◆ 肺腫瘍内科は完全予約制です ◆

初診患者様の診察は水・木・金曜日のみのため、
予約が取りにくい状況となり、ご迷惑をおかけしております。
事前の予約取得がない状態で、直接お越しいただいても当日の診察はできません。
必ず事前に予約をお取りいただきますようお願い申し上げます。

＜院内診療科のご案内＞ ※4月に整形外科と救急診療科、7月に腎臓内科を開設しました！

感染症内科 肺腫瘍内科 緩和ケア科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 アレルギー・リウマチ内科 小児科
消化器外科 乳腺外科 眼科 呼吸器外科 皮膚科 産婦人科 放射線科 泌尿器科 耳鼻咽喉・頭頸部外科
歯科 麻酔科 リハビリテーション科 病理診断科 臨床検査科 **整形外科 (R4.4開設)** 集中治療科
外来化学療法科 呼吸器内視鏡内科 **救急診療科 (R4.4開設)** **腎臓内科 (R4.7開設)**

＜病院機能指定＞

- ・地域医療支援病院 ・エイズ治療拠点病院（結核・重症呼吸器感染症を併発したエイズ患者）
- ・大阪府アレルギー疾患医療拠点病院 ・第2種感染症指定医療機関 ・難治性多剤耐性結核広域圏拠点病院
- ・大阪府がん診療拠点病院（肺がん） ・母体保護法指定医師医療機関 ・特定診療災害医療センター
- ・労災保険指定医療機関 ・日本医療機能評価機構認定病院 ・2次救急告示医療機関
- ・大阪府小児地域医療センター ・大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

地域連携情報誌 令和4年8月 発行

＜発行＞

大阪はびきの医療センター事務局 経営企画グループ

＜ご連絡・お問い合わせ＞

大阪はびきの医療センター地域医療連携室
直通:072-957-8030 代表:072-957-2121
FAX:072-957-8051

メールアドレス ; habikino-chiiki@ra.opho.jp

受付時間:月曜～金曜9:00～17:30